

高知工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	法学 A	
科目基礎情報							
科目番号		0039		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		総合科学科		対象学年	4		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		教科書（必携）：小林直三『中絶権の憲法哲学的研究——アメリカ憲法判例を踏まえて』（法律文化社、2013年）、参考書（任意）：澤野義一・小林直三編『テキストブック憲法』（法律文化社、2014年）、孝忠延夫・大久保卓司編『憲法美感！ゼミナール』（法律文化社、2014年）、小林直三・根岸忠・薄井信行編『地域に関する法的研究』（新日本法規出版、2015年）					
担当教員		菊池 直人					
到達目標							
【到達目標】 1. 法学の基礎的な専門用語の意味を理解できる。 2. 憲法に関する基礎知識を身につける。 3. 中絶権に関する基礎知識を身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		法学の基礎的な専門用語の意味に関する出題について、8割以上、正解できる。		法学の基礎的な専門用語の意味に関する出題について、7割以上、正解できる。		法学の基礎的な専門用語の意味に関する出題について、6割以上、正解できる。	
評価項目2		憲法に関する基礎知識についての出題について、8割以上、正解できる。		憲法に関する基礎知識についての出題について、7割以上、正解できる。		憲法に関する基礎知識についての出題について、6割以上、正解できる。	
評価項目3		中絶権に関する基礎知識についての出題について、8割以上、正解できる。		中絶権に関する基礎知識についての出題について、7割以上、正解できる。		中絶権に関する基礎知識についての出題について、6割以上、正解できる。	
評価項目4		私語なしに講義を受講し、かつ講義内容を8割以上、理解できる。		私語なしに講義を受講し、かつ講義内容を7割以上、理解できる。		私語なしに講義を受講し、かつ講義内容を6割以上、理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		法学の基礎的な内容および憲法上の人権に関する基本的な内容を解説するとともに、憲法上の人権における重要な論点である中絶権に関して、解説します。					
授業の進め方・方法		通常の講義形式で行います。講義内容の理解を確かめるため、質問をすることもあります。					
注意点		中間試験および学期末試験の成績の平均を80%，平素の学習状況等を20%の割合で総合的に評価します。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	法とは何か？			授業で説明した内容を修得する。	
		2週	法の分類とその概要			授業で説明した内容を修得する。	
		3週	憲法とは何か？（3～4週）			授業で説明した内容を修得する。	
		4週	憲法とは何か？（3～4週）			授業で説明した内容を修得する。	
		5週	人権総論（5～6週）			授業で説明した内容を修得する。	
		6週	人権総論（5～6週）			授業で説明した内容を修得する。	
		7週	包括的人権規定について			授業で説明した内容を修得する。	
		8週	プライバシー権について（8～9週）			授業で説明した内容を修得する。	
	2ndQ	9週	プライバシー権について（8～9週）			授業で説明した内容を修得する。	
		10週	中絶権をめぐる米国の判例展開（10～11週）			授業で説明した内容を修得する。	
		11週	中絶権をめぐる米国の判例展開（10～11週）			授業で説明した内容を修得する。	
		12週	中絶権をめぐる学説の概要（12～13週）			授業で説明した内容を修得する。	
		13週	中絶権をめぐる学説の概要（12～13週）			授業で説明した内容を修得する。	
		14週	生命と科学と倫理と法について			授業で説明した内容を修得する。	
		15週	全体のまとめ			授業で説明した内容を修得する。	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。		3	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。		3	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。		3	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	平素の学習状況等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0